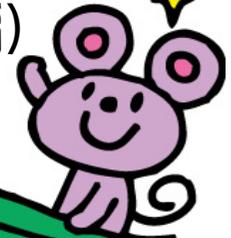




保育者からの
メッセージ

だだこね
(2歳～3歳編)



大人が提案することには何でも「イヤ」と言ったり、やってあげようとする「ジブンデ」と言い、上手にできなくてかんしゃくをおこす…そんな時期の子どもに、どう対応したらよいか、困っていませんか？

平成18年1月編集・発行
平成21年1月改訂
平成24年9月改訂
令和8年3月改訂
仙台市こども若者局
幼稚園・保育部 運営支援課



こんな行動ありませんか？

イヤ！帰らない。
イヤ！片付けたくない。



自分でやるの！
できない！（イライラ）



薬は飲みたくないの！



これは着ない！
こっちがいいの！

上手く
いかないよ～



こんなふうに作り
たかったのに…



言葉がけや対応を少しだけかえて、こどもの心に魔法をかけてみませんか？

★心の準備をする時間や、自分で納得し気持ちの切り替えができるきっかけを作しましょう。

「あと少ししたら片付けしようね」
「（時計）6になったら出かけるよ～」
「それが終わったら片付けね。待ってるよ」



★こどもが選べるような選択肢を作ってあげたり、薬を飲む理由やしたいことが今はできない理由も話してあげましょう。

「こっちにする？それともこっち？
好きなの選んでね。」
「薬はどのコップに入れて飲む？」



★できそうなことや得意な事をお願いして、認められる場面を作ってみましょう。



「もしかして、こんなことができる？
「〇〇やってくれるかな」



「すごいね、できるんだ！」
「ありがとう、助かった。」
など嬉しくなる声掛けを。



★一人でできたという満足感を味わえるようにしましょう。

様子を見ながら、さりげなく手を貸したり、
「お手伝いしてもいい？ここ持っていてあげるからね」



★気持ちを受け止め、その思いを言葉にしてあげましょう。
こうしたら上手くいくかもと提案してみましょう。

「そうかぁ、こうしたかったんだね」
「上手くいなくて悔しいね」
「こうしたら上手くいくかもよ」



「自分でやりたい」「選びたい」「わかってほしい」という思いを、言葉や行動で一生懸命に表現しています。それは、大人と“対等に関わろう”とする、こどもなりのコミュニケーションなのです。この時期、大人がこどもの気持ちを受け止め、丁寧に関わることで、こどもは安心感を持ち、自分の気持ちを出しながら、自立への一歩につながっていきます。

